

授業	【G】	英米法Ⅱ	区分		【G】3		【G】2	
科目名	【H】	英米法Ⅱ	選択	開講年次	【H】3	単位数	【H】2	
	【I】	英米法Ⅱ			【I】3		【I】2	
科目区分	専門科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	英米法の概要を学ぶ			担当者	八木 保夫			
授業概要	【概要】	講義「英米法Ⅰ」に続き、英米法の概要を学ぶこととするが、総論としては、英米の法曹（弁護士・検察官）と陪審制度を中心に学習する。しかし、英米法が実際に社会の中で機能する態様を知ることも重要であることに鑑みて、英米法各論として、公法・私法の両面に関わりを有するイギリス環境法を取り上げ、「英米法Ⅰ」で学んだ総論部分も基盤としつつ、判例分析も含めて、環境保全のために法がどのような作用を社会に及ぼしているかを学習することとする。そこでは、イギリス不法行為法や行政法が取り扱われることになる。						
	【到達目標】	日本法以外に、広い視野を持って外国法にも関心を持ち、その基本的特徴を理解することができる。英米法の諸制度と日本法のそれらとを比較法的に対照させて把握することができ、英米法が日本法に与えている影響を認識することができる。						
履修条件	憲法概論、民法概論、行政法概論を履修済みであることを前提とする。							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との関連性	事前に、憲法概論、行政法概論、民法概論、憲法(人権)Ⅱ、憲法(統治)Ⅰ、民法(総則)Ⅰ等を受講しており、並行して、憲法(人権)Ⅰ、憲法(統治)Ⅱ、行政法(総論)Ⅱ、民法(総則)Ⅰ、民事手続法(民事訴訟法)Ⅱ等のいずれかを受講することが望ましい。							
教科書	授業中に、レジュメ等の資料を配付する。							
参考書	(1) 戒能通弘＝竹村和也『イギリス法入門』(2018年、法律文化社) (2) 田中英夫『英米法総論(上・下)』(1980年、東大出版会) (3) 藤倉皓一郎＝木下毅＝高橋一修＝樋口範雄編『英米判例百選[第3版]』(別冊ジュリスト139、1996年、有斐閣) (4) 田中英夫(編集代表)『BASIC英米法辞典』(1993年、東大出版会)							
評価方法	授業3回に1回程度の頻度(通算5回程度)で出題する学習到達度確認テストへの回答(45%)、毎回事前に提示する資料の空欄補充課題への回答(15%)、毎回授業終了時に提出する復習課題への回答(30%)に加え、授業への取組姿勢(10%)等を勘案して総合的に評価する。なお、不正行為があった場合は大幅減点とする。							
フィードバック方法	毎回事前に提示するレジュメ資料の空欄補充課題の正解を当該授業中において解説すると同時に、欠席者を配慮して、クラスルーム上にも提示し、授業終了時に提出する復習課題の正解および学習到達度確認テストの正解を、課題出題の次の週の授業において解説すると同時に、クラスルーム上にも提示して、学習内容の定着と振り返りを促す。							
評価基準	英米法の基本的特質について十分理解し文章等で説明できる者は程度に応じてSまたはA評価、英米法の特徴についてよく理解できる者はB評価、英米法で使用される基本用語の意味について一応の理解ができる者はC評価、C評価に満たない者については程度に応じてDまたはE評価とし、授業終了時に提出する復習課題の不提出、学習到達度確認テストでの欠席等、評価不能な者に対してはF評価とする。							

授業 科目名	【G】	英米法Ⅱ	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【H】	英米法Ⅱ	選 択		【H】3		【H】2
科目名	【I】	英米法Ⅱ			【I】3		【I】2
授業回数	授業内容						
1	イギリスの法曹 予習： 弁護士の二分主義を考える(100分) 復習： イギリスの法曹団体を確認する(80分)						
2	アメリカの法曹 予習： アメリカの弁護士の特徴を考える 復習： アメリカの法曹団体を確認する						
3	陪審制度(1) — 陪審の種類 予習： 陪審の種類を考える 復習： 大陪審と小陪審の相違を確認する						
4	陪審制度(2) — 陪審員の選任 予習： 陪審員の選任を考える 復習： 選任手続と忌避を確認する						
5	陪審制度(3) — 評決 予習： 評決の方法を考える 復習： 陪審員の報酬と罰則を確認する						
6	陪審制度(4) — 批判と擁護 予習： 民事陪審と刑事陪審を考える 復習： 陪審制度への批判と擁護を確認する						
7	イギリス環境法(1) — 法源 予習： 環境法の法源を考える 復習： コモン・ロー上の法源を確認する						
8	イギリス環境法(2) — 不法行為類型 予習： 不法行為類型と判例を考える 復習： コモン・ローの限界を確認する						
9	環境訴訟(1) — 訴訟手続 予習： 環境訴訟における問題点を考える 復習： イギリスの行政訴訟制度を確認する						
10	環境訴訟(2) — 訴訟要件 予習： 原告適格について考える 復習： イギリス司法審査制における原告適格を確認する						
11	環境訴訟(3) — 判例紹介① 予習： ローズ劇場事件とプール市会事件を考える 復習： 各事件の争点と判旨を確認する						
12	環境訴訟(4) — 判例紹介② 予習： グリーンピース事件とマレーシア・ダム事件を考える 復習： イギリス環境訴訟の課題を確認する						
13	ナショナル・トラスト(1) — 意義と歴史 予習： 環境保全手法における位置付けを考える 復習： 歴史と現有資産を確認する						
14	ナショナル・トラスト(2) — カントリー・ハウス保存制度 予習： 制度の成立と法整備を考える 復習： 法整備の効果をj確認する						
15	ナショナル・トラスト(3) — 具体例 予習： 自然保護と歴史的建造物の事例を考える 復習： 2事例の保全実態を確認する						
その他	他の履修者の提出物の模倣、他の者による身代わり回答等、履修態度が良くない者には厳正に対処する。						